

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月8日
【四半期会計期間】	第112期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社ツガミ
【英訳名】	TSUGAMI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 CEO 西嶋 尚生
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋富沢町12番20号
【電話番号】	(03)3808-1711(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部部長 川井 洋志
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋富沢町12番20号
【電話番号】	(03)3808-1711(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部部長 川井 洋志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第111期 第1四半期 連結累計期間	第112期 第1四半期 連結累計期間	第111期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	6,992	12,670	32,225
経常利益 (百万円)	1,119	1,676	1,932
四半期(当期)純利益 (百万円)	834	1,094	344
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,212	1,082	1,085
純資産額 (百万円)	32,812	32,188	31,587
総資産額 (百万円)	46,669	56,082	52,250
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	11.33	15.17	4.72
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	11.16	14.91	4.64
自己資本比率 (%)	69.3	56.3	59.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	429	904	714
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	559	295	713
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	156	710	445
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	5,245	4,110	6,044

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動がみられたものの、全般的には、緩やかな回復基調が続きました。

工作機械業界におきましては、国内市場は水準は低いものの回復基調が続き、米国市場、欧州市場は順調に伸展しております。また、低迷していた中国市場にも回復の兆しが出てきております。

このような状況の下、当社グループは、前期第4四半期から受注が始まりましたIT関連向け製品の出荷に加え、前期に投入しました自動車関連向け新製品も寄与し、売上、利益とも前年同期比増加となりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、12,670百万円(前年同期比81.2%増)、営業利益は1,903百万円(同358.6%増)、経常利益は1,676百万円(同49.8%増)、四半期純利益は1,094百万円(同31.1%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本につきましては、売上高は9,807百万円(前年同期比62.7%増)、営業利益は334百万円(前年同期は営業損失137百万円)となりました。

中国につきましては、売上高は9,610百万円(前年同期比125.3%増)、営業利益は1,682百万円(同502.2%増)となりました。

韓国につきましては、売上高は300百万円(前年同期比51.2%減)、営業利益は25百万円(同75.7%減)となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて1,934百万円減少し、4,110百万円となりました。当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、904百万円の減少となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益1,647百万円、減価償却費249百万円、仕入債務の増加3,443百万円により資金が増加した一方、売上債権の増加3,227百万円、たな卸資産の増加2,573百万円、法人税等の支払960百万円により資金が減少したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、295百万円の減少となりました。

これは主に、有形固定資産の取得181百万円、無形固定資産の取得172百万円により資金が減少したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、710百万円の減少となりました。

これは主に、自己株式の取得264百万円、配当金の支払434百万円により資金が減少したことによるものです。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、279百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	320,000,000
計	320,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	74,919,379	74,919,379	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	74,919,379	74,919,379	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	74,919,379	-	12,345	-	5,884

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,562,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式71,948,000	71,948	-
単元未満株式	普通株式 409,379	-	-
発行済株式総数	74,919,379	-	-
総株主の議決権	-	71,948	-

(注)上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式が、12千株(議決権の数12個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ツガミ	東京都中央区日本橋富沢町12番20号	2,562,000	-	2,562,000	3.42
計	-	2,562,000	-	2,562,000	3.42

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,227	4,242
受取手形及び売掛金	6,686	9,873
商品及び製品	7,374	7,566
仕掛品	4,631	6,586
原材料及び貯蔵品	8,953	9,169
未収消費税等	876	609
繰延税金資産	577	519
その他	746	863
貸倒引当金	120	140
流動資産合計	35,953	39,291
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,142	5,060
機械装置及び運搬具(純額)	3,906	3,720
土地	564	564
リース資産(純額)	25	23
建設仮勘定	473	895
その他(純額)	307	309
有形固定資産合計	10,420	10,574
無形固定資産	328	607
投資その他の資産		
投資有価証券	4,247	4,330
関係会社株式	11	11
関係会社出資金	1,107	1,107
長期貸付金	6	6
繰延税金資産	1	1
その他	167	147
投資その他の資産合計	5,541	5,604
固定資産合計	16,290	16,786
繰延資産	5	4
資産合計	52,250	56,082

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,630	14,413
短期借入金	6,075	5,968
未払法人税等	1,113	576
賞与引当金	246	155
製品保証引当金	277	248
その他	973	1,234
流動負債合計	19,316	22,598
固定負債		
繰延税金負債	327	477
役員退職慰労引当金	14	15
退職給付に係る負債	946	746
その他	58	56
固定負債合計	1,346	1,295
負債合計	20,663	23,893
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,345	12,345
資本剰余金	5,889	5,884
利益剰余金	11,424	12,167
自己株式	1,079	1,236
株主資本合計	28,579	29,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,391	1,447
為替換算調整勘定	1,134	1,043
退職給付に係る調整累計額	123	101
その他の包括利益累計額合計	2,401	2,390
新株予約権	605	638
純資産合計	31,587	32,188
負債純資産合計	52,250	56,082

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	6,992	12,670
売上原価	5,152	9,260
売上総利益	1,839	3,409
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	317	363
貸倒引当金繰入額	0	17
賞与引当金繰入額	49	30
退職給付費用	17	19
役員退職慰労引当金繰入額	3	1
研究開発費	363	279
保険料	32	40
製品保証引当金繰入額	43	27
その他	596	780
販売費及び一般管理費合計	1,424	1,505
営業利益	415	1,903
営業外収益		
受取利息	5	2
受取配当金	28	34
受取賃貸料	8	9
為替差益	708	-
受取保険金	12	0
その他	33	17
営業外収益合計	797	64
営業外費用		
支払利息	34	52
為替差損	-	169
手形売却損	24	38
その他	33	31
営業外費用合計	93	291
経常利益	1,119	1,676
特別利益		
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産除却損	0	3
固定資産売却損	9	26
投資有価証券売却損	112	-
特別損失合計	122	29
税金等調整前四半期純利益	997	1,647
法人税、住民税及び事業税	134	443
法人税等調整額	28	109
法人税等合計	162	552
少数株主損益調整前四半期純利益	834	1,094
少数株主利益	-	-
四半期純利益	834	1,094

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	834	1,094
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	113	56
為替換算調整勘定	264	90
退職給付に係る調整額	-	22
その他の包括利益合計	377	11
四半期包括利益	1,212	1,082
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,212	1,082
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	997	1,647
減価償却費	252	249
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	19
賞与引当金の増減額(は減少)	82	91
退職給付引当金の増減額(は減少)	8	-
製品保証引当金の増減額(は減少)	29	27
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	4
受取利息及び受取配当金	33	37
支払利息	34	52
投資有価証券売却損益(は益)	112	-
固定資産売却損益(は益)	9	26
為替差損益(は益)	276	93
売上債権の増減額(は増加)	350	3,227
たな卸資産の増減額(は増加)	667	2,573
前渡金の増減額(は増加)	39	6
仕入債務の増減額(は減少)	582	3,443
未収消費税等の増減額(は増加)	456	272
その他	43	207
小計	1,085	65
利息及び配当金の受取額	33	32
利息の支払額	32	41
法人税等の支払額	658	960
営業活動によるキャッシュ・フロー	429	904
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	108	10
定期預金の払戻による収入	53	65
有形固定資産の取得による支出	831	181
有形固定資産の売却による収入	2	4
無形固定資産の取得による支出	3	172
投資有価証券の売却による収入	323	-
その他	2	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	559	295
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4,552	1,484
短期借入金の返済による支出	4,115	1,492
社債の償還による支出	150	-
自己株式の売却による収入	1	0
自己株式の取得による支出	0	264
配当金の支払額	441	434
リース債務の返済による支出	2	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	156	710
現金及び現金同等物に係る換算差額	235	23
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	50	1,934
現金及び現金同等物の期首残高	5,296	6,044
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,245	4,110

【注記事項】

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が168百万円減少し、利益剰余金が108百万円増加しています。また、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高及び輸出受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
受取手形割引高	978百万円	1,065百万円
輸出受取手形割引高	2,453百万円	2,559百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
現金及び預金勘定	5,470百万円	4,242百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	225百万円	131百万円
現金及び現金同等物	5,245百万円	4,110百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	441	6.00	平成25年3月31日	平成25年5月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	434	6.00	平成26年3月31日	平成26年5月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

・前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	日本	中国	韓国	合計
売上高				
外部顧客への売上高	3,749	2,626	616	6,992
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,277	1,639	-	3,916
計	6,026	4,266	616	10,909
セグメント利益又は損失()	137	279	103	245

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	245
未実現利益の消去他	169
四半期連結損益計算書の営業利益	415

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

・当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	日本	中国	韓国	合計
売上高				
外部顧客への売上高	5,468	6,906	294	12,670
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,338	2,703	5	7,048
計	9,807	9,610	300	19,718
セグメント利益	334	1,682	25	2,042

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,042
未実現利益の消去他	138
四半期連結損益計算書の営業利益	1,903

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	11円33銭	15円17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	834	1,094
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	834	1,094
普通株式の期中平均株式数(千株)	73,683	72,163
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	11円16銭	14円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	1,122	1,236
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		(連結子会社) ストック・オプションに係る新株予約権2種類(新株予約権の数4,845,000個、3,706,000個)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年5月13日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....434百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....6円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年5月28日

(注) 平成26年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月8日

株式会社ツガミ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐 朗 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野本直樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ツガミの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ツガミ及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。